



中国がわかるシリーズ19

再統一への動き(前)

ライフネット生命株式会社
代表取締役会長兼 CEO、出口治明

[北]魏では、孝文帝の跡を継いだ宣武帝(499~515)の時代に、首都、洛陽が繁栄を極めました。1 万戸を超える外国人が住み着き、宣武帝の霊皇后が創建した永寧寺のあまりの神々しさに、海路、南インドからやってきた仏僧、菩提達磨(少林寺に入り、面壁座禅をして、中国の禪祖となった人です。わが国では、「だるまさん」として知られています)は、幾日も合掌を続けたと伝えられています。しかし、急速な漢化政策から疎外された遊牧民の不満は高まりつつあったのです。

江南では、502 年、梁の武帝が即位し、寒人を使って貴族を抑圧した齊はわずか 20 年余りで滅亡しました。武帝の半世紀近い治世は、南朝の黄金時代と云われていますが(首都、建康の人口は 100 万人に達したとの説もあります)、それは北朝の内乱や分裂のお陰で目立った戦乱がなく、また、武帝が名門貴族を重用して寛容な政治に努めたからでもあるのでしょう(自由な雰囲気の中で、囲碁や樗蒲などの賭博も、また、空前の活況を呈しました)。稀代の崇仏皇帝として名高い武帝は、仏教に深く帰依し、自らを何度も仏教寺院に捨身しました。その度に、政府は財貨を積み上げ、皇帝を買い戻さなければならなかったのです。武帝は、仏教に関わる著述も多く、当代一流の知識人でもありました。その血を受け継いだ長子、昭明太子は、古今の優れた詩文を集めた「文選」を編集し、後世に大きな影響を与えました。わが国では、17 条憲法や万葉集にも、文選の影響が見られるとされています。

507 年、倭国の大和政権で、王統が変わりました。すなわち、越前から新しい大王(継体)が、大和に迎えられたのです。528 年には、筑紫の磐井が大和軍に敗死しました。これによって、九州の勢力は、大和にほぼ統合されたと考えられています。なお、磐井は新羅と通じていた節があり、大和と九州の争いは、(韓半島と密接に絡んでおり)倭国の国内問題だけでは片付けられないと考えられています。

523 年、[北]魏で、六鎮の乱(~530)が起きました。[北]魏は、建国時に、北方の守りを固めるべく、有力豪族を辺境 6 箇所に鎮民として送り込んでいましたが(武川 6 鎮)、漢化政策の中で六



長期投資仲間通信「インベストラيف」

鎮の特権は次々と奪われ、不満が鬱積していました。この内乱を契機に[北]魏は衰亡し、534年、ともに武川 6 鎮出身の実力者の高歓(東魏)と宇文泰(西魏)が、それぞれ帝室を担いで、[北]魏は東西に分裂したのです。当初は、鮮卑の故地に近い東魏が実力で圧倒していました。実権を持つ、高氏、宇文氏は、550年、高洋が齊([北]齊)を、557年、宇文覚が周([北]周)を建国し、魏はここに滅亡することになりました。なお、550年頃、西魏では、府兵制が実施されました。これは、均田制と対を成す兵農一致の制度であり、隋唐帝国に継承されることになります。また 544 年頃、「齊民要術」(最古の農業百貨全書、31 種のお酒の造り方まで述べられています)が成立しています。6 世紀の半ば頃、400 年続いた長い寒冷期が終わり、中国の気候は温暖化して農業生産力が上昇に転じました。要するに、中国統一への舞台が整えられたのです。

南朝では、武帝の晩年の 548 年に、東魏からの降将、侯景が反乱を起こして建康は荒れ果て(江陵に臨時首都を移転)、梁はこれをきっかけに瓦解の道を辿ることになります。554 年には、西魏によって江陵が陥落し、百官が関中に拉致されました。557 年には、南朝最後の政権、陳朝が成立しました。なお、陳朝は、北方からの移住者ではなく、江南土着の武人(陳霸先)が建国した南朝初めての王朝です。